ZEN-ANE REN PRESENTS "ELDER SISTER" ONLY MAGAZINE

全姉連会報

vol.22

姉属性専門誌

全姉連会報 第２２号

表紙イラスト：姉月 恩様

『ガンダムビルドファイターズトライ』から、2014 年日本姉大賞を受賞した、カミキ・ミライ姉さんにご登場いただきました～。
ガンプラバトルに燃える弟・セカイ君を優しく見守り、けれど弟と親しそうにする女の子をつい気にしてしまう複雑な姉心の持ち主。
みんなの理想的な姉イメージを表現した、傑作お姉さんと言えるでしょう！

『姉小路直子と銀色の死神』（みなとカーニバル）

タカヒロ氏の新作姉ゲー登場。姉キャラ多数、姉萌えあり笑いありの姉大作です！

『あねよめカルテット』（きゃんでぃそふと）

４人のお姉ちゃんの中から嫁選び!? 佐々宮氏×マイルドセブンスター氏のタッグ誕生。

『姉のおなかをふくらませるのは僕』（原作・坂井音太／作画・恩田チロ）

「姉弟クッキングコメディ」って……何だ？ 食を通じて姉弟の楽しい生活を描きます。

『大きいお姉の子は好きですか?』（愛染五郎）

大柄な肉食系女子バレー部員にいじられる主人公。お姉ちゃんは意外にも純情で？

『すのはら荘の管理人さん』（ねこうめ）

寮の華といえば美人の管理人さん。すのはら荘の管理人さんは色々と凄かった！

『おねショタ！ 弟のお世話はお姉ちゃんにお任せ』（著・089タロー／イラスト・空維深夜）

突然幼児化してしまった弟クン。姉萌えとおねショタ要素の見事な融合がここに。

『弟の赤ちゃんが欲しくない姉なんていません！』（著・秋月耕太／イラスト・神無月ねむ）

15 年前に生き別れた弟と姉3人。再会の感動もつかの間、姉達の次なる目的は？

全姉連のレビューは「姉萌え」至上主義。評価基準は、「姉萌えか否か」。
本文中で引用した画像、文章の著作権は、すべて各メーカー様、著者様にあります。

姉小路直子と銀色の死神

メーカー	みなとカーニバル
ジャンル	ADV
発売日	2015 年 3 月 27 日

小和田学園に通う主人公・ 姉小路新九郎は「年上から好かれる」という特徴を持っていた。

新九郎の姉、直子は必要以上に弟を甘やかさないが信条だが、結局は、そんな弟がいつも気になる様子。

弟をちゃんとした大人に導かないと、と燃える直子。

そこに北欧からの留学生、キルスティがやってきた。

銀色の死神と軍で異名をとる彼女だが、なんと新九郎を気に入ってしまったようで、姉の心労は増えるばかり。

彼の周囲の騒動は加速していく…。

■タカヒロ氏の新作姉ゲー!

超有名メーカーでも名も無き零細同人サークルでも、姉ゲーの土俵上では一つの作品として先入観なくプレイし評価をしているつもりですが、何にでも例外はあります。

その特大の例外といえば、今はみなとそふとの偉い人、姉ゲーファンには雲の上の人、タカヒロ氏の手による姉ゲー。

もはや説明不要……いや、そろそろ説明が必要な世代が出てきているかも知れない、かつて姉業界の一世を風靡した『姉、ちゃんとしようよっ！』シリーズの生みの親が、姉を中心テーマに原点回帰を謳って 2015 年春に世に解き放ったのが本作『姉小路直子と銀色の死神』なのです。

プレイ前から嬉しすぎて、先入観ありまくりでスタートしたんですが、そんな上がりきったハードルを上に行く充実の姉ゲーっぷりに大満足ですよお姉ちゃん！！

昔も今も、姉という素材を活かしきり、目の肥えたファンをうならせるタカヒロ氏の実力に脱帽する新作です。

■姉要素その他色々たっぷりと

小田原をモデルにした街・小和田を舞台に（氏の作品は神奈川県内の街をモデルにするのがお約束）、姉・ローカルアイドル・ライバル的転校生の要素を織り込んだ、姉弟愛あり、年上愛あり、笑いとパロディ全部乗せのお気楽極楽作品。

主人公にとって家族と呼べる姉は、表題にも表れている“姉小路直子”お姉ちゃん１人です。

しかし！　彼女以外の主要ヒロインが、弟持ちの姉だったり、弟萌えだが弟のいない姉？　だったり、先輩だったり師匠だったり……とまあ、姉好きにも年上好きにもたまらない仕様。テーマが姉ですから、とにかく姉に関係する要素はふんだんに用意されています。

特に、後ほど紹介する富永姉弟なんか、暴君姉と抑圧される弟の日常描写だけで姉ゲー１本分の価値があるとか思っちゃいますからね。俺どんだけ好きなの、姉に虐げられる可哀想な弟。

■お姉ちゃん達はアイドル!?

本作を支える一つの柱は、主人公の姉を含むメイン３人がローカルアイドルグルー

プを結成し、地元で活躍している設定。

一見、ここ数年のアイドルブームに乗っているだけのように見えるこの設定、姉ゲーとは関係ないんじゃない？　と思いがちですが、そんな単純なことはしていませんって。

彼女らのアイドルグループ「テスモポリス」は、**姉ドル**なんです（ババーン）！

もう「姉ドル」とか、その語感だけで説明不要っしょ。

実際に弟を持つ姉２人と、弟を愛してやまない（でも弟はいない）姉１人で結成されるテスモポリスは、姉系アイドルとして市民に親しまれているので、街なかで主人公がお姉ちゃんと手をつないでいたとしても、スキャンダルどころか、あらあら今日も仲が良いわねと言われるだけ。そんな、我々にとっては優しい世界が開けています。

■お姉ちゃんの対抗馬は……

幼なじみでもある姉ドルらと、弟同志である男友達、そして学園の愉快な仲間とともに過ごしていた日々に突如嵐を巻き起こすのが、フィンランドからやってきた留学生・キルスティ。

これぞ白猫参謀先生と言える姉オーラビンビンのキャラクターで、姉しよ時代からのファンなら条件反射で姉を感じるハズ。

彼女が直子お姉ちゃんとライバル的な位置に立つわけですが、真に姉属性のプレイヤーなら直子お姉ちゃん一択と言いたいところ、このキルスティさんの存在感があまりにも強すぎて心が揺らいでしまう……そんな葛藤を抱いたら、それはきっと製作側の狙い通り。

■キャラクター

ではここから、キャラクター説明を兼ねて、本作の姉ゲー的要素の紹介。

・姉小路直子（姉）

作品タイトルが証明する、本作の真・姉ヒロイン。

親の再婚で出来た、主人公新九郎のお姉ちゃん。非血縁ではあるものの、その設定をあいまいにすることなく、義姉であることをストーリーにも絡ませています。

基本的に常識人かつ真面目な性格で、直子の名前は、真っ直ぐな人柄を表したもの（公式設定）。

真面目と言ってもガチガチの堅物ではなく、弟がだらけていれば、ちゃんとしなさいよと声はかけるが強要まではしない、そんな理解のあるお姉ちゃんスタイル。弟くんも素直に従います。

学園では、優等生という立場に分類されるものの超人というレベルではなく、あくまで普通の人の範囲でよく出来る生徒として描かれ、親しみやすさ優先。

アイドルの側面も、ローカルアイドルにとどまり、テレビ出演も地元のローカル局がメインといった活動。

…と、ここまで書くと、タカヒロキャラとしては随分と丸くなったんじゃないの？という印象を受けます。

姉しよ、つよきすのように、お姉ちゃん達は姉である以前に人間としてぶっ飛んだ

個性や特技を持っていたことと比較すれば、かなり落ち着いた――言い換えれば、お姉ちゃんの造形において角が取れたキャラ、そんな風に言えます。

このギャルゲー業界で、デビュー当初からとがった姉キャラを提示してきたタカヒロ氏が、“割と普通のお姉ちゃん”をプロデュースしたのは、姉属性ユーザーがそういうお姉ちゃんを欲していることを察知してのことか、それとも……。

「今、貴弟の望むお姉ちゃんは、凄いお姉ちゃんですか、それとも普通のお姉ちゃんですか？」

この問いに、あなたはどう答えるか？

もし後者の答えが多数派なら、本作はまさに時代が求める姉ゲーと言えます。

ここまでは、ナオ姉の基本スペックを紹介してきましたが、姉要素に関してはやっぱり普通じゃないですよ！　姉属性の弟ユーザーがついニヤリしてしまう、姉ゲーらしい掛け合いやイベントがたくさん詰まっていて、この作品が本当に姉ゲーとして作られたことがよく分かります。

ナオ姉の対弟基本ポリシーは、姉は弟を立派に育てなければならないというもので、過保護は良くないわと言いながら、毎朝弟を起こしに行ったりする程度にはちゃっかり世話焼き。

ブラコンレベルについては、ナオ姉は、確かに普通と呼べる範囲のお姉ちゃんなので、周囲が引くような過激なブラコン露出プレイはしません。

でも、やっぱりブラコンは隠せない。そしてそれは、頭の中のほとんどのネジはきちんと締まっているのに、所々締めるところが間違っているタイプ。

いい年した姉と弟なんだから、もう一緒にお風呂なんて入らないわと言った直後、弟の入浴中に押しかけてきたナオ姉は、

「一緒に入るなんて、脱ぐ時も一緒ってわけで、それはさすがに恥ずかしいし、こうしてタオル持ち込みで後から入ってくる姉として立派に分別つけてるわよね」

「う、うん？」

「とはいえこれを毎日やるとさすがに甘やかしになるから、それも駄目」

後から入れば、一緒に入ったことにならないという斬新な姉理論。

この後、主人公は男子として健全な反応を見せてしまい、ナオ姉はそれに気付いて鎮めてくれるのですが、その対応たるや、初めてトイレでおしっこができた子のように褒めてくれるのです。

ナオ姉にとって弟はまだ小さい子ども。「弟クンに彼女は早いんじゃないなかなぁってお姉ちゃん思うの」と言い出しそうな感じの、そんなお姉ちゃんです。

・富永ひつじ

主人公姉弟のお隣に住む幼馴染みであり、家族同然の付き合いのお姉ちゃん。

性格は活発でアグレッシブ。主人公にとっても姉貴分のような存在。

彼女には弟の弐介（主人公と同級生）がいるのですが、この姉弟は完全にお姉ちゃん天下。弐介にダメ人間的な部分があるからとはいえ、とにかくこのお隣さんは姉恐怖政治のお宅なのです。

ナオ姉なら、弟のしつけも優しくしてく

れるその頃、富永姉弟は、

> 弐介「いいなぁ。うちはアゴにジャブいれられてフラついた所に跳び関節だぜ」

姉の無慈悲な折檻に遭う弟の姿、すごい楽しいんだけど、何でだろうと思ったら、タマ姉にアイアンクローを喰らう雄二のせいでした。この姉弟の楽しさは向坂姉弟のアレです。だから、私は弐介もすごい好き。頑張れ弐介。一生下克上はないけど。

こんなに怖い姉でも、痛めつけられるのは主人公ではない第三者の弟なのでノーマルプレイヤーでも反感を買わずに済んだりとか、姉弟で髪の色をちゃんと揃えていて姉弟感を表していたりとか（タマ姉＆雄二もここは意識されていた。）、愛すべき姉弟。

ファンディスクがあったりするなら、弐介視点の富永姉弟シナリオをですね……。

・椿　礼（ぺこ）

激甘お姉ちゃんファンの皆さま、お待たせです！　姉ドルグループ・テスモポリスの１人で、弟好きだが弟がいないため理想の弟を追い求める、ぺこお姉ちゃんです！

その理想の弟とは、まさに主人公とのことで、会えばハグハグして可愛がってくれる、嬉しいお姉ちゃん。

基本、おっとり天然お姉ちゃんなんですが、時折弟好きが暴走して貞操の危機を感じることもちらほら。

> 「二人っきりの姉と弟。何が起こっても不思議じゃないね」

弟に抱きついて嬉しそうな彼女を見ていると、何だかこちらまで幸せになる、心の底から弟好きなんだなぁと思わせる素敵なお姉ちゃんです。

・キルスティ・ユリアンティラ

ひと目で分かる白猫参謀先生のキャラは、フィンランドからやってきた、軍人お姉様留学生。

銀色の死神の異名を持つ彼女は、本作内ではチート級の強さを持ち、向かう所敵なし。

軍隊仕込みの真面目な性格だが、何かと理解のある面もあり、頼れるお姉様風味。

そして、忘れてならないのは、公式人気投票で１位を獲得した彼女の母・タマラさん。美人で未亡人、お茶目な性格と溢れ出る色気……。タマラさんたまらねえ！

■それはまるで姉アニメのように

ナオ姉かキルスティさんか、大きく分けて二択で進むこの作品は、全十二話から成っていて、まるでワンクールのアニメをゲームに投影したかのような構成になっています。これ、アニメ慣れした身には大変馴染みやすく、途中でダレることもない、非常に良いスタイルです。

ギャグやパロディネタも盛りだくさんで、姉しよやつよきす時代からのタカヒロテイスト今なお健在！　姉ゲーの楽しさがいっぱい詰まった作品でした。

あねよめカルテット

メーカー	CandySoft
ジャンル	あねよめ恋愛アドベンチャー
発売日	2014 年 10 月 31 日

花菱家と日高家はお隣同士。しかも父親同士が無二の親友ということもあってまるでひとつの家族のように仲睦まじく暮らしておりました。

特に日高家のひとり息子光輝（こうき）は花菱家の美人四姉妹に本当の弟のようにかわいがられ育ちました。（中略）

なんと光輝と四姉妹の中のひとりを許嫁にするという約束がそれぞれの両親の間で勝手に決められていたのです。（中略）

かくして夏休みの間、光輝は花菱家の四姉妹と一つ屋根の下で暮らすことに。

仕事は出来るのに、家ではグータラで光輝をこき使う長女・由梨奈　（ゆりな）。

光輝のことが大好きで、ひたすらに甘やかせちゃう次女・桃音　（ももね）。

家事万能でご奉仕してくれる、メイドだけど引きこもりの三女・桜織　（さおり）。

光輝を自分専用のオモチャと公言してはばからない四女・杏　（あんず）。

彼女たちにもそれぞれの思惑があり、大好きな光輝を自分のお婿さんにするべくあの手この手で迫り、時には身体を張ったエッチな誘惑を仕掛けてきます。

果たして光輝が花嫁に選ぶのは、誰なのか――

にぎやかなお姉ちゃんたちの四重奏（カルテット）が、始まります。

■姉ゲーの老舗ブランドから

すっかり姉ゲーブランドとしておなじみとなった CandySoft さんから、期待の新作姉ゲーが発売ぃ！

いや、ホントに CandySoft さんの姉ゲーは今も昔も姉ゲーユーザーの心を掴むのが上手い。そりゃ人によっては当たり外れのブレはあるでしょうが、好みの問題として片付けられるものであり、「僕らが望む姉ゲーの形」を大きく踏み外すことがない。

一緒に暮らす家族として気の置けない関係の姉弟が、その関係を保ったまま、もう一つ上の段階に進む様子を描くことが姉ゲーの真髄の一つですが（いわゆる「ボーイ・ミーツ・ガール」とは根本的に違うのです。）、それは誰にでも出来るものではないと、この十年余り姉ゲーを見て分かってきました。

本作は、お姉ちゃんからお嫁お姉ちゃんへのステップアップを描くのが主題です。

■隣のお姉さん、ごすが

主人公はごく普通の男子学生。

そのお隣に住む、家族ぐるみで付き合いのある一家の４姉妹とは姉弟同然の関係で育ってきたが、両親の海外赴任をきっかけに、４人のうち１人を花嫁に選ぶため、同居生活することとなった、というあらすじです。

ここで、実姉原理主義の一派はどうしても興味を失ってしまうでしょうか。仕方ありません。

ただ、原理主義とまで言わない程度に許容の余地がある弟なら、ここで見限るのはもったいない。

隣のお姉さんとは言えど、お姉ちゃん達との心理的距離や生活環境は、本当の姉弟

と大差なく描かれています。散らかった姉の部屋を片付ける弟、半裸や全裸すら気にしない姉、家事を手伝う弟、遠慮なく部屋に押しかける姉……。主人公にしてみれば、お隣のお宅に居候中の身なんですが、そんなことを全く意識させない、自宅同然の同居生活が読み取れます。

その昔、“隣のお姉さん”と言えば、憧れの象徴や高嶺の花といったステレオタイプなイメージが安易に使われることが多くて、良い印象がなかったのですが、もう完全に過去のものとなりました。

４人のお姉ちゃんはみんな主人公のことを弟のように、いや弟として、可愛がったり甘やかしたりこき使ったり。隣に住む坊やだからと特別な扱いは一切ありません。

実姉じゃなければマジ無理、な人以外は、問題なくお姉ちゃんと弟の生活を味わうことができます。この点は心配ありません。

■目的は嫁選びでも…

ストーリーの構成は、共通ルートで主要登場人物の主人公とお隣４姉妹との関係やお嫁さん選びをすることになったいきさつが描かれ、その後４択の選択肢を選んで個別ルートという作り。

物語全体を通して、明るい雰囲気で話が進行し、各お姉ちゃんルートごとに何らかの困難・悩みを姉弟一緒に乗り越えることでお互いの関係が深まり、絆が深まっていく流れです。

共通ルート終盤、姉妹の中から嫁選びをするための主人公の同居が決まると、４姉妹はそれぞれの思惑で同居を歓迎します。

家ではグータラな長女は毎日身の回りの世話をしてもらえることになったとニンマリし、弟を甘やかすことが生きがいの二女は趣味のお菓子作りで毎日主人公を喜ばせようと張り切り、もはやプロのメイドとして家事を一手に引き受ける三女は２４時間弟のお世話が出来る幸せに喜び、弟をいいオモチャ扱いする四女はこれから好きな時に弟を呼び出せると内心大はしゃぎ。

あれ？　主人公のお嫁さん選びのために同居することになったはずなのに、そんな目的はいったん頭から抜けて、主人公が本当の弟になったかのような状況が何よりも嬉しそうなお姉ちゃん達、それでいいの？

いいんです！　４姉妹は、みな自分が選ばれたいとの思いはあるとしても、結婚が全てとは考えていないようで、それはきっと、夫婦関係はオプションのようなもので、姉弟関係こそ絶対に譲れない大事なものだと考えているからに違いないのです。

美少女ゲームによくある嫁選びシチュエーションは、ヒロイン達が主人公の心を射止めようと必死になるのが普通ですが、本作はそういったことはありません。当然です。他人ヒロインは自分が選ばれなければ他人のままですが、お姉ちゃん達は自分が選ばれなくてもお姉ちゃんと弟であることに変わりはないのだから。ましてや、ライバルが仲の良い他の姉妹なら、安心して嫁の座を任せられるとすら思っているフシがあります。

ゆえに、姉妹の誰か一人と結ばれて、それを他の姉妹の前で公表すると、軽く悔しがられたり冷やかされたりすることはあっても、二人の仲を祝福してくれて応援してくれる、そんな温かい雰囲気がこの家にはあります。

個別ルートに入った後も、他のお姉ちゃん達は何らかの形で関わってくれて、賑やかさはちゃんと続きます。４人それぞれ長所と弱点があり、姉妹はお互いにそれを知り尽くしているので、掛け合いも面白い。姉と弟の間だけでなく、お姉ちゃん間の仲が良いというのも多人数型姉ゲーの大事なポイントです。

■キャラクター

・花菱由梨奈（長女）

表向きの顔は、会社で責任ある部署を任される、バリバリの有能な若手社員。

しかし、自宅では弟を肴に酒を飲むのが大好きで、割とすぐ脱ぐタイプ。気を抜けば自堕落になりがちなグータラ姉さん。

仕事に関しては妥協を許さず強い信念を持っていて、実は家事もきちんと出来たりする完璧素材なのに、弟分の主人公をこき使い、一生の面倒を見てもらいたがる。

とは言え、ここぞという場面で頼りがいがあり、締めるときは締められるのは、さすが姉妹の長の器。しかし、それを年の功と評した日には、身の安全の保証はない。

・花菱桃音（二女）

どこに出しても恥ずかしくない、天然おっとり型・溺愛系激甘お姉ちゃん。

甘やかしが得意なだけあって、趣味はお菓子作り。脳天突き抜ける激甘お菓子で弟君を可愛がります。

弱点は、お菓子作り以外の料理。

他の姉妹に比べ取り柄がないポンコツお姉ちゃんと卑下するが、その陽気で朗らかな性格で一家の太陽のように照らす、無くてはならない姉妹の一員。

なお、総裁的には金髪碧眼巨乳という一発ＫＯ確定のルックスでした。

・花菱桜織（三女）

メイド服姿で一家の家事を完璧にこなすスーパーメイドお姉ちゃん。

メイド服姿に似合う楚々とした美人で、物腰も非常に穏やか。ご奉仕精神が染み付いて、主人公の面倒を見ることが姉の幸せとばかりに、よく世話を焼いてくれる。

家族全員のことをよく見ていて、長女が父親的なら、桜織姉さんは母親的。

その彼女の唯一かつ最大の弱点は、深刻な対人恐怖症の引きこもりであること。

果たして主人公は、彼女の引きこもりを克服させてあげられるのか……？

・花菱杏（四女）

いたずら好きで主人公を自分専用のオモチャ扱いするお姉ちゃん。

主人公と最も歳の近いお姉ちゃんの例外に漏れず、遊び友達のような関係でバカが出来る気さくな間柄。

主人公をからかうことはあっても、好きな子にちょっかいを出す小学生と同じで、どうしてもブラコンは隠しきれません

個別ルート中盤から後半は別の側面や趣味性癖も顔を覗かせ、飽きません。

■新たなる姉ゲータッグで

姉ゲーとして文句なしに合格を与えられる良作でした。

勝因の一つは、やはりメインでシナリオを担当したのが、姉作家で有名な・佐々宮ちるだ先生だったからでしょう。

『もっと姉しよ』でも企画・監督を務めたマイルドセブンスター氏の手腕も見逃せません。

姉ゲーファンとして、今後もこのタッグで作る姉ゲーに期待します。

姉のおなかを ふくらませるのは僕

原作	坂井音太
作画	恩田チロ
発行	2015 年 6 月 19 日

まったく血の繋がっていない姉弟のふたりだけの生活。

危なっかしい高校生の姉・京子としっかり者である小学生の弟・忍が交代で家事をして、今日も二人で囲む美味しい食卓♪

■姉弟クッキングコメディ!?

いよいよグルメ漫画ブームも姉コミックに進出。

とは言っても、姉弟で美味しいものを食べに行ってウマイウマイ言うだけの退屈な漫画にあらず。作る方です。クッキング。

主人公は、訳あって二人暮らしをしている仲良し姉弟。その二人の生活と交友関係を描く中に、料理と食事シーンが挟み込まれるスタイルの作品です。

姉モノに期待する読者からしても、グルメ要素は全く邪魔にはならず、それどころか、姉のため、又は弟のためにキッチンに立って料理をする姿が姉弟愛の象徴になっています。

「姉弟クッキングコメディ」。はじめは何それ？　状態でも、読み終える頃には「これだよこれ！」になること間違いない姉コミックです。

■姉弟二人暮らしの食生活

主人公は、女子高生の京子お姉ちゃんと、小学生の弟・忍。

二人は親の再婚で出来た義理の姉弟だが、血の繋がった家族以上にお互いを思い合っている仲睦まじい姉弟。

端々に散りばめられた場面から、そう遠くない過去に両親を一度に亡くしていることが分かりますが、悲しみや苦労は表されず、今は姉弟二人の生活を楽しく送っている様子が活き活きと描かれています。

二人で他愛のない話をしながら帰宅して食事をする回、二人の保護者代わりで元ヤンの叔母…お姉さんを接待する回、チャーハンの極意を得るため姉がチャーハン修行に明け暮れる回等々、料理に置かれる比重は大小あれど、基本は「姉と弟と食」。これがバランスよく組み合わされているのです。

■姉と弟と美味しいご飯

先に弟君の紹介から。

弟・忍君は、その年齢にしては聡明かつあり得ない器用さで料理ができるスーパー小学生。

造形は極めて中性的で、妹と言われても納得してしまう顔立ち。キッチンに立って料理をするキュートな後ろ姿は、肉食系の姉なら間違いなく襲うパターン。

こんなに可愛い弟君なのに、大好きな姉のことは「京子」と呼び捨てる肝の持ち主だから恐れ入る。

そしてその姉、京子お姉ちゃん。

校内でも指折りの美少女で、黙っていればモデルにもなれそうな彼女だが、その性格は奔放で好奇心旺盛。ゲームやプロレスが好きで、子どもに混じってはしゃぐこともしばしば……という男子小学生的な心も持ち合わせる元気系女子高生。

料理の腕は、弟に負けず劣らず確かなもので、こだわるとトコトン追求してしまう料理人。

作る方だけじゃない。食べる方も上手。

というか、何でも美味しそうに食べるその表情がすごくイイ！

脂の乗ったサンマを食べる！　大盛りの牛肉丼を食べる！　パラッパラに仕上がった極上チャーハンを食べる！　食べる！　食べる！　弟と一緒の食卓を囲み、至福の表情で食べる！

そう、この食漫画の最大の売りは、姉が幸せそうに食べる姿だ！

考えてみて欲しい。我々が姉作品に求める究極のシーンとは、詰まるところ、幸せそうな姉の姿ではなかったか？

ならば、もうこれだけで、最高のグルメ＆姉マンガではないか！

何もブラコンシーンでなくても良いのだ。

僕らはただ、読者という名の弟として、お姉ちゃんの心の底から幸せそうな表情が見られたら満足なのだ！

そう悟りを得た時から、『姉おな』は至高の姉コミックとなったのです。

そうは言っても、基本はグルメ漫画なんでしょ？　と疑う貴弟。甘い！

グルメ要素に引けをとらない家族愛要素もすごい。それはまるで、そば屋なのにカレーも極上みたいな。

それもこれも、１巻ラストの第７話最終ページですよ！　もしすでに読んだ方なら絶対に覚えているであろう、お姉ちゃんの添い寝シーンです。

……両親に先立たれ、姉弟で肩寄せ合って生きる２人。今の生活があるのは、弟をかばい、姉弟が引き裂かれないよう必死に抵抗した姉の姿があったことが窺えます。

普段お気楽に生きているように見える姉が、内心では弟を唯一の家族としてどれほど大切に思っているか……。

たった一つのエピソードですが、これがあることで、弟に対する姉の行動の裏側にある気持ち、そして添い寝シーンで吐露される姉の言葉の重みがすべて理解できるのです。この見せ方一つ取っても、姉漫画として十分すぎるほどの合格点です。

■想像以上の姉漫画

食を通じて二人暮らしの姉弟の生活を描く漫画……という紹介だけでは伝わらない、この姉漫画感、お分かり頂けたでしょうか。

作画、ストーリー、キャラクター設定等レベルが高く、誰にでも薦められる姉漫画です。

それにしても、腹が減った！

大きい女の子は好きですか？

著者	愛染五郎
発行	竹書房バンブーコミックス
発行日（第２巻）	2015 年５月１日

姉の陰謀で大学女子バレーボール部の寮長兼監督となった草太。

女子ばかりの女子寮で背の低い草太は絶好のからかい対象となる。

奔放な大柄女性ばかりの寮生活で巻き起こるハプニングの数々に、草太はどう立ち向かうのか？

実力派・愛染五郎の放つセクシーコメディの決定版！！

■大きい女の子、好きです！

いいじゃないですか、大きい女の子！

大きいって言っても、体の特定の一部じゃなくて、体全体が、ですよ？

多くの姉属性男子は、長身で引き締まった体育会系ボディのお姉さんとか大好物ですし、そもそも姉属性に目覚めるきっかけとなった人やキャラって、普通より大きめのお姉さんだったりしません？

体が大きいということは、それだけで安心できたり、豊かな包容力を感じたりするもの。

大きい女の子に興味があるなら、まずそれだけの理由でもいいので、手に取ってみてください。

■女子バレー部に男一匹

姉に騙されて、姉の所属する女子バレー部の寮長兼監督にさせられた、小柄な弟・草太が本作の主人公。

女子バレー部の部員は、ほとんどが姉同様、人目を引くほどの長身の女子ばかり。

その中で、草太がかつて一目惚れした初恋の女性・綾乃と再会して……といった流れで第１話が始まります。

大きい女性ばかりの女子寮に、小柄な男子が一人。これはもう期待しない方がおかしいってもんですね。

だがしかし、ここにはおねショタ要素はなく、あるのは肉食系女子が跋扈する檻に放り込まれた男一匹の図でした。

その肉食系の筆頭が、意外にも正ヒロインのように見えた（第１巻では一人で表紙を飾っていた）、綾乃さん。

彼女は、いきなり１話から主人公とホテルへ。その後も度々草太を襲っては、すっきりした表情で去っていき、ついには草太から淫獣呼ばわりされる始末。

ここで一つ突っ込んでおこう。

ホテルで綾乃さんに告白した主人公。
返ってきた答えは、

「うーん　…弟って感じかな」

主人公これでフられたことになってるんですけど……なぜ？　どうして？

弟みたいなんて言われたら、それはカノジョ以上の関係でしょーが！

そんな訳で、淫獣綾乃さんとはずるずると体だけの関係を続けつつ、他の部員とも大体１話１人ペースで仲良くしちゃうような展開が１巻は続きます。

■お姉ちゃん、実は……

さて、肝心の姉・薫お姉ちゃんとの関係。

１巻ではその場の雰囲気でお姉ちゃんと濃厚チューまではするものの、他の部員のように一線は越えず未遂止まり。

仮にも実の姉弟だし、これも致し方ないと諦め半分、いや、ここまでじらしてお姉ちゃんを温存しているのは、姉ルートが来るのでは、と期待半分で臨んだ２巻。

来ましたよ、お姉ちゃんルート！

主人公の姉・薫お姉ちゃんは、バレーボール一筋の体育会系女子。サバサバとした性格で、他の部員の暴走にもブレーキをかけられる、まあまあまともな人。

弟に無理やりバレー部の寮長兼監督を押し付けるなど、弟使いの荒い姉……と思っていました。１巻までは。

それが２巻に入ってからはどうよ！

弟が他の女の子と仲良くしているのを見るとイライラしたり、ちょっと弟に褒められると真っ赤になって照れまくったり。

もう間違いない。

薫お姉ちゃんは、とんでもないブラコンなのに、それをひた隠しにしたあまり、ブラコンであることを素直に出せなくなってしまった、純情ブラコン乙女だったのだ！

これを確信してから１巻を読み返すと、弟が他の女の子といいコトしたと聞いた時に見せる複雑な顔が百倍愛おしくなる上、ちょっとした演出の一つ一つが全てこのお姉ちゃんの秘めた弟愛につながることに気付きます。と同時に、この弟が次々と女子部員と関係を持ち、さらには元カノまで登場したことが、どれだけお姉ちゃんを苦しめているのか分かってんのか！　と弟に説教したくなるのです。弟、ホント悪い奴。

そして、２巻のラスト、第 16 話。

弟からのデートのお誘いに応えるお姉ちゃん。

まるで初恋の男の子相手に初めてのデートのような初々しい反応を見せる姉が可愛くて仕方ない！

そして、気持ちよく酔ってしまったお姉ちゃんは、最愛の弟とホテルへ……。

ここで２巻はおしまい。そんなぁ!!

最初は「大きい女の子＋姉も出るよ」程度に思っていたのが、実は、隠れブラコンの大きいお姉ちゃんが、紆余曲折しながら弟と結ばれていくという素晴らしい姉漫画でした。

すのはら荘の管理人さん

著者	ねこうめ
発行	一迅社ぱれっとコミックス
発行日	2015 年 6 月 22 日

見た目のせいで男扱いされてこなかった椎名亜樹は、自分を変えようと中学校入学を機に東京へ出てすのはら荘に入寮する。

しかしそこで亜樹を待っていたのは、天然でいたずら好きなすのはら荘の管理人さん・春原彩花に心も体もかわいがられる毎日だった。

さらに、ほかの同居人も全員年上の女の子で…。

いやしとドキドキがたっぷりで、ついつい管理人さんに甘えたくなっちゃう年の差（おねショタ）ラブコメ！

■年上ゆるふわ系の巨（略）

この４コマ、知っている人がいたら、言われるんだろうなぁ…

おっぱい星人が！

って。

違わい！　って顔真っ赤にして否定すればするほど肯定になるし、ああそうだよと開き直れば、やっぱりね、ってなるし。

詰んでるじゃないか！

そうだよ！　この作品買ってる人は、それだけが目当てじゃなくても、それが立派な目当てのハズだよ！

年上のゆるふわ系きょぬーお姉さんが好きな奴は迷わず読め！

■学生寮といえばもちろん

舞台は、住人が全員中学生の学生寮・すのはら荘。

中学校に進学し、ここに入寮することとなった中１男子・椎名亜樹。彼がこの寮にやってきたところから作品は始まります。

ところで皆さん、寮や下宿といった言葉から連想することは何ですか？

せーので答えましょう。はい、せーの！

「**美人の管理人さん！**」

正解です。

天に星、地に花、人に愛。家に姉、学校に女教師、そして寮に管理人！

めぞん一刻の時代から連綿と続く管理人漫画文化の最先端がここ、すのはら荘です。

ここの管理人さんは、春原（すのはら）彩花お姉さん。

推定（希望）年齢二十代後半。ベースは天然おっとり系（騙されるな！→後述）。

何より目を引くのは、ホルスタインも裸足で逃げ出す超ド級わが

ままボディ。例の紐なんかじゃ支えられません。綱です！　綱が要ります！

貴弟の嗜好によっては、この１点だけで買ったって何の問題もありません。これは間違いなく本作の売りになっているポイントですから。

おっぱいだけが目的じゃないもんとおっしゃる紳士や素直になれない貴弟には、お姉さん力もなかなかであるという大義名分情報を紹介しておきましょう。

まだ中学生にもかかわらず寮住まいを始めた主人公は、やや弱気な性格もあって、不安なことばかり。

そんな時、彼の不安を読み取って、あの手この手で安心させようとする管理人さんの姿は、彼にとっては第２の姉（主人公は実姉持ち設定。）。

まあ、その作戦が時には的外れだったりして、そこが漫画のオチにもなっているわけですが、主人公のことを心配してくれたり支えてくれたりする姿は、姉の心に通じます。

かと言って、じゃあ管理人さんがゆるふわ系の天然で無垢なお姉さんかと問われると、完全に首を縦に振りにくいところがありまして……。

ここで「管理人さんは全部分かってて誘惑している小悪魔説」の登場です。

おそらく、こういう作品の王道は、管理人さんの無意識な行動が主人公をドキドキさせ、結果として管理人さんの無邪気さ、純粋さが浮き彫りになる、って形だと思うのですが、この管理人さん、主人公がウブな性格なのを知った上で、胸を押し付けたり膝枕したり添い寝したりしている疑いがあります。

男の子が困ることを知ってて、敢えて行動に出るお姉さん、けしからんですねぇ…。**大好きです。**

いい年した大人の女性が、男の子に胸を当てておいて、その意味が分からないとかあり得ない話であって、むしろ積極的にぐいぐい押し付けて「当ててんのよ」と言い放つのが粋な姉、ッてぇもんです。

ここの管理人さんは、さすがにそこまでしちゃうと似合いませんが、時には主人公を困らせて楽しむ可愛さはあっていいと思うのです。

なお、すのはら荘には、管理人さんのほかに、中学校生徒会の女子３人組が暮らしています。小さくてあどけなさを残す会長、クールかつ可愛い物好きの副会長、常に笑顔の糸目キャラだが隠れた趣味を持つ生徒会役員。

当然全員が先輩で、すのはら荘の生活を賑やかにする彼女たちは、全姉連的には「同居する３姉妹」と捉えて読むのがお薦め。

■管理されたい貴弟に

寮や下宿を舞台にした作品が、本来姉モノとは別ジャンルなのに大好きなのは、極めて近い場所で寝食を共にする人物たちが擬似家族のような関係を築いていくからだ、と自己分析しています。

ところで、「寮なら管理人じゃなくて寮母じゃないの？」とのツッコミもあろうかと思いますが、ここでは「管理人」で正解です。

理由は右のコマで察せよ。

おねショタ！

弟のお世話はお姉ちゃんにお任せ

著者	０８９タロー
イラスト	空維深夜
発行	二次元ドリーム文庫

何かとかまいまくってくる三人の姉からの自立に必死な亮太。

しかしある日突然、幼児化してしまい！？

ますますショタ化した少年は、姉おっぱいを吸わされながらの手コキや、筆下ろしなんていうエッチな甘やかしで、今まで以上に可愛がられることに！

■おねショタは姉モノか!?

もう立派に成熟した女子が、心も身体も未成熟な男の子を甘い誘惑で押し倒し、手籠めにしてしまう、おねーさん×ショタ＝おねショタ。

ここで男女が逆転した場合、すなわち、下衆野郎がいたいけな少女を押し倒す行為だとどす黒い犯罪臭がするのに対し、頬を紅潮させたバインバインなおねーさんが無垢な少年にイタｚ…愛情を注ぐ行為は、極めてクリーンで健全で、文科省も大推薦！的なイメージがするのはなぜでしょうか（一部印象操作が入っています。）。

やはりそれは、女性の母性的な面を見て安らぎを覚えるからでしょうか。

我々が姉を求め、姉に癒やされるのも、女性が持つ年下への慈しみの心に惹かれるからであったはず。

そう、だからおねショタは、姉萌え男子が嗜むべきジャンルの一つなのです。（やっと姉萌えに繋がった！）

長々とおねショタを正当化するようなことを書いたのは、おねショタが姉モノの代用品的な見方をされていたらもったいないなと思っているからです。

ま、本書は、『おねショタ！』なんてそのまんまな書名でも、実は実姉弟モノなので、言い訳がましく書く必要なかったんですけどね。なら書くな？

■姉萌え×おねショタ

実姉弟設定なら、わざわざおねショタ設定を入れる必要ないじゃん、って？

それが違うんだなぁ～。

本作の弟君は、３人の姉を持つ羨ましい弟ですが、３番目の姉との年の差は１歳。

しかし、ある朝、目が覚めると体が 10 歳くらいに幼くなってしまってさあ大変、という出だしから始まります。

３人のお姉ちゃん達は、もとから大のブラコンで、それぞれのスタイルで弟を可愛がっていたところ、小さくなってしまった弟を見て、弟可愛い熱がエスカレート！

そこで生まれたのは、「ブラコン的な弟可愛がり要素」と「小さい男の子可愛がり要素」が融合した、姉萌え×おねショタのハ

イブリッド姉ノベルなのです！

幼くなってしまった主人公が一人でお風呂に入ると、心配したお姉ちゃんが後から浴室に入り……

「ううっ、百合姉ちゃん、ぼく、その……は、恥ずかしい、よぉ……」
「どうして？　昔はよく一緒に入ったじゃない、お姉ちゃん、とっても楽しかったよ」

姉弟としての関係と、おねーさん×ショタっ子の関係を重ね合わせる手法はなかなか見事で、どちらか単体だけでは感じられない新たな姉萌えシーンを見せてくれます。

この手法だけでなく、小さくなった弟を可愛いと思いつつも陰では元に戻す方法を一生懸命に求めるお姉ちゃん達の姿を描いたり、弟の体が縮むことで精神的にも多少幼くなってしまう設定を置いたりなど、注文の多い姉萌え読者を満足させる、よく練られた作品になっています。

■キャラクター

・桂葉百合菜（長女）

おっとり天然タイプの典型的長女型お姉ちゃん。学校の養護教諭を務め、精神的にも肉体的にも圧倒的な包容力で弟を甘えさせてくれる姉。

だが、ただ単に甘やかし姉ではなく、

「大丈夫。お姉ちゃん知ってるよ。亮くんがいつもがんばってたこと。将来はお姉ちゃんみたいに先生になりたいって思ってたこと」
（中略）
正直にいえば、お世話大好きなダダ甘お姉ちゃんだと思っていた。
けれど百合菜は、弟の努力をちゃんと見てくれていたのだ。

と、こんな感じで弟の本当の姿を見て、さらに支えてくれる良き姉の顔もしっかり持ちあわせています。

・桂葉美波（次女）

同じ学校に通っている、クールビューティーな姉。

しかし、家の中では弟に対してセクハラも辞さず、部屋には弟モノのHな本が転がっているような、小悪魔系の困った姉。

「おーっと逃がさないわ。亮太に拒否権ないし。そのおちんちんおねーちゃんのだし！」

こんなオープンエロスお姉ちゃん大好きなんですが、それでいて弟の幼児化を一番心配していたり、実は弟一途な顔も持ち合わせていたりと、ギャップ萌えもある素敵お姉ちゃん。総裁の脳内 CV は伊藤静です。

・桂葉真子（三女）

弟と１つ違いの姉。空手の有段者で真面目な性格ゆえ、上の姉２人のブレーキ役。

体育会系のボーイッシュキャラ。ただし、弟を前にして気が緩むと可愛いお姉ちゃんの顔をのぞかせるのはもちろんお約束。

弟は立派に育てようと表向きには硬派に振る舞うも、内心甘やかしたくもあり、その葛藤でツンデレ風味になってしまう部分もまた魅力。

「先に手を出したのはそっちだ。わたしはな──弟を傷つけられるのが一番嫌いなんだ！」

幼児化した弟の用心棒として頼りになるが、一方で弟の心の強さや頑張りを認めてくれる良き姉の側面も見逃せません。

■キャラ萌えあり、おねショタあり

弟の幼児化によって浮かび上がる姉３人それぞれの姉キャラ個性が楽しい姉ノベル。おねショタ要素も充実し、多方面に欲張れる美味しい１冊でした。

弟の赤ちゃんが欲しくない姉なんていません！

著者	秋月耕太
イラスト	神無月ねむ
発行	フランス書院美少女文庫

再会した姉たちからまさかのお願い!?
――私たち三人と赤ちゃん作って！
女系一族の甘いしきたりに従って、
ほんわか姉・睦美、
ボーイッシュ姉・茜、
変態暴走姉・紗央理と中出しハーレム。
「ゆーくんを大人にしてあげるね～」
「いっぱい甘えていっぱい出せよ！」
「姉は弟専用ラブハメ嫁なのだから」

■お姉ちゃん界では常識です！

「弟の赤ちゃんが欲しくない姉なんていません！」
って言われても、よくよく考えれば美少女文庫に登場するようなお姉ちゃんだったら99%そう言いそうだよなぁ……と思ったのはさておき、弟君とのイチャコラ準備万端整えバッチコーイなお姉ちゃん３人組が登場する姉ノベルがこちら。

フランス書院で活躍する秋月先生が、美少女文庫では意外にも初の姉ノベルに進出です。

三者三様異なる性格のお姉ちゃん達が、大事な弟を代わる代わる可愛がる姉ハーレムがここにありました。

■１５年ぶりに再会した姉弟

プロローグは、昼下がりの生徒会室。

３人のお姉ちゃんに囲まれ、その長女お姉ちゃんから食後のデザートに紅茶とショートケーキを進められる弟君。

開始５行の文章でこんな風景が描かれ、ああ穏やかな姉弟のひとときだなぁ、ホッとする系の姉作品かなぁと感じた瞬間、次女のセリフで全て打ち砕かれます。

> 「この真っ赤な苺、形といい色合いといい、優太の亀頭に似てるわね。見ているだけで興奮するわ」

そうだ、これは美少女文庫の作品だった。

この後、まだプロローグの章の中にもかかわらず、いい最終回だった級の濃厚な描写が始まるという、スタートから全速力の展開が待っています。

著者の奇襲をくぐり抜けた後に始まる第一章。

初めて足を踏み入れる大富豪の屋敷で縮こまる 15 歳の主人公・優太。彼は、乳児の頃に誘拐された後、孤児院に捨てられ、以来肉親と生き別れになったが、身元が判明してこの屋敷に帰ってきたという。そして、そこで再会したのが、先ほどの３姉妹。

今まで色々な姉と弟の出会いを見てきましたが、これは珍しい設定。なかなか凝っ

たことをするものだと思いましたが、この設定、天涯孤独だと思っていた少年だからこそ“血の繋がった家族”をどれだけ大切に思っているかの理由となり、かつ、実姉なのにドギマギ緊張してしまう弟（それを姉達は優しく解きほぐす）という状況を作り出していることに気付きました。

ただ、そういった姉ノベル向けの設定も、「この一族は圧倒的な女系で、十世代に１人くらいしか男子が生まれない。もし男子が生まれたら、その姉妹と赤ちゃんを作る決まり」
なんてのを読んだら、ああやっぱり美少女文庫らしい設定もあって安心するわ～ってなことになります。

15 年ぶりの再会シーンで祖父も見守る中を姉弟でキス三昧、三姉妹と一緒に通うこととなった学校が女子校など、本文ではさらっと流しているけど、え？　ちょっとまって？　みたいなこともあって、気が抜けません。

３姉妹は皆仲が良く、お互いの性格を知り尽くしている様子が見て取れ、抜け駆け、駆け引き要素はほぼありません。それどころか、弟が長女を相手に初めての瞬間も、

「緊張しなくていいんだぞ、ゆー坊。睦美姉が全部やってくれるんだ」
「それに私達もついているわ。だから安心して姉さんに身を任せなさい」

のように、次女と三女がセコンドに付き、手を握って励ます始末。

また、３人とも弟に対しては積極的で、前述のようなしきたりもあることから、背徳感はゼロです。その辺にこだわりのある諸弟は知っておくように。

■キャラクター

・二ノ宮睦美（長女）

３姉妹の中では甘やかし担当大臣。

大らかでマイペース、金髪キャラでありながら、母性を感じる優しいお姉ちゃんがここの長女。

語尾に必ず「～」が付くため、否応なしに甘い声が読者の脳内に再生されます。

「ゆーくん、好きよ～。だ～いすき～」

・二ノ宮紗央理（次女）

学校では生徒会長を務める、黒髪ロングの優等生にして、本作品最大の問題児。

黙っていればいい姉。黙っていれば……。

感情を押し殺したクールな口調で飛び出すセリフは、変態妄想丸出しな卑語のオンパレード。地上波はおろか、ＡＴ－Ｘでも全ピーです。

サンプルセリフを置くのは自粛します。

でも大好きよ、こういうお姉ちゃん！

・二ノ宮茜（三女）

元気印でスポーツ少女なボーイッシュ系。

カッコ良くて頼りがいがあり、同性からも人気があるタイプ。さっぱりした性格と行動は、読んでいて気分の良いキャラです。

「あたしは三女の二ノ宮茜だ、よろしくな。あたしがいるからには、ゆー坊には絶対に怖い思いはさせねえぜ」

弟のことは可愛くて仕方がないといった様子で、弟から求められればいつでも甘えさせてくれる優しさもあります。

■定番かつ変化球も

生き別れた姉弟が再会しイチャイチャする、あらすじ自体はシンプルですが、所々に仕込んだ変化球と姉３人の個性で楽しめる姉ノベルでした。

まーとにかく紗央理姉ちゃん自重！

今号もお読み下さり、ありがとうございます！

リアルタイムでは１年ぶりの新刊なんですが、かと言ってページ数が倍増するでもなく、いつもどおりの１冊です。私に実は生き別れの姉がいることが判明したとか、小さい頃に姉に可愛がってもらったという強固な妄想が植え付けられたりしたら記念増刊号も出すつもりでいるんですが、それもありませんでした。

この会報が、いつからか批評というよりも、気に入った姉作品を褒め、そして紹介しようというスタイルに切り替えてから薄々気付いてきたんですが、小弟はどうやら世間的にはイマイチな評価の作品でも面白く感じてしまうという“神のセンス”を会得したようです。

これはイイ!!　と思って記事を書いた後に、あれこれけちの付いたレビューを見たりするとビックリするんですが。何と言うか、そんなつまらん言ってたら損じゃない？

そんな筆者の書いたレビュー本なので、記事に乗せられて買ってはみたが面白くなかったと言われても責任は負いかねますが、レビューを信じて良かったと思える作品に出会えたら、その著者、メーカー、出版社にフィードバックと、全姉連への更なるご愛顧をお願いする次第であります！

あ、あとうちのリアル弟夫婦が本当に姉弟作りました。メチャクチャ可愛いです。

全姉連会報 第２２号

発　行： 全姉連 総本部（http://www.zenaneren.org/）
発行日： 2015 年 8 月 16 日
著　者： 全姉連総裁
連絡先： so-sai@zenaneren.org
表　紙： 姉月 偲様
印　刷： 株式会社ユリクリエイト様

本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。ここにお礼申し上げます。
本書へのご感想、ご意見、ご質問はお気軽に上記連絡先までお送りください。

全姉連
http://www.zenaneren.org